

非行少年の共感性に関する研究（その1）

矯正協会附属中央研究所 大川 力
 出口 保行*
 大西 美加**

1 はじめに

非行少年がなぜ非行に走ったのかを説明する際に、しばしば「共感性の乏しさ」が用いられる。すなわち、非行少年は、自らの行為が他者にどのような苦痛や悲しみを与えるかをあまり考えず、自己中心的に行動しやすいというもので、これは一見非常に合理的であり、だれもが納得しやすい説明となっている。

その一方矯正施設等に出合う非行少年たちのほとんどは、人の優しさや親切を微妙に感じ取れるだけの能力を有していることも多く、その欠如を指摘できるのはごくまれである。また、非行少年はその非常に狭い人間関係の中では、過剰に共感的な行動をとることもよく見られるところである。そこで、本研究では非行少年の共感性の特質を探るために、質問紙法を用いた調査を行い、併せて道徳意識・規範意識について調査することとした。

2 方法

(1) 対象者

全国の少年鑑別所に平成8年9月から約2か月間、観護措置により入所した少年のうち、鑑別判定まで終了した少年を対象とした。その結果、1,332名の資料が得られたが、調査票に未記入の部分が多い等の理由から一部を除外し、1,318名を分析の対象とした。

(2) 手続

調査票は次の2種類である。

ア 職員用調査票

次の25項目について、鑑別担当職員に記入を依頼した。各項目とも、少年鑑別所で用いられている鑑別統計カードとほぼ同様の下位項目を設定した。

調査項目（下線の項目は重複回答が可能）

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1 年齢 | 2 性別 |
| 3 入所回数 | 4 知能SS |
| 5 MJPI新追加尺度 | 6 非行名 |
| 7 非行の動機 | 8 本件共犯数 |
| 9 本件共犯役割 | 10 在宅保護歴 |
| 11 試験観察歴 | 12 保護施設・
刑事処分歴 |
| 13 非行初発年齢 | 14 非行範囲 |
| 15 学歴 | 16 現職 |
| 17 養育者 | 18 養育者安定度 |
| 19 現在の保護者 | 20 父の養育態度 |
| 21 母の養育態度 | 22 兄弟姉妹数 |
| 23 現在の家庭の問題 | 24 精神診断 |
| 25 鑑別判定 | |

イ 少年用調査票

この調査票は、アンケート1・アンケート2の2種類の調査票から構成されている。

- ①アンケート1 笠井ら(1974)及び坪内ら(1993)の作成した、道徳判断を数量的に測定する質問紙を参考に48項目から成る調

*現法務大臣官房秘書課

**現浦和少年鑑別所

査票を作成した(資料1)。

- ②アンケート2 出口ら(1990, 1991)が一連の共感性研究で使用している質問のうち、非行少年に理解不能であると思われるもの、不適切と思われるものを除いて、51項目から成る調査票を作成した(資料2)。

なお、以後アンケート1を「規範意識尺度」、アンケート2を「共感性尺度」とする。

(3) 少年用調査票の整理方法

規範意識尺度については、「まったく悪くない」から「まったく悪い」に対して、0点から3点の重み付けを行い得点化した。この調査票は規範意識や道徳判断を測定する目的で作成されたものなので、この得点の高低は規範意識や道徳意識の高低を示すことになる。各項目はその内容により次のような6つのカテゴリーに分類できる(各項目に付した数字は質問番号である)。

①犯罪行為A (法律的に犯罪を構成するものであるが、下記の②と③を除く)

- 5 犯人隠匿 12 暴行 16 詐欺
20 万引き 24 自動車窃盗 26 器物損壊
27 無賃乗車 28 空き巣 29 毒劇物
31 遺失物横領 32 恐喝 37 銃砲等所持
45 占有離脱物横領

②犯罪行為B (法律的には犯罪行為Aと同じであるが、他からの誘発で行われたもの)

- 9 暴行 13 殺人 36 万引き
40 暴行 43 暴行 44 脅迫
46 強盗 47 単車盗

③ぐ犯行為(法律的には犯罪ではないものの、将来犯罪に至る虞が高いもの)

- 1 不良交遊 2 登校拒否 6 徒遊
10 家財持ち出し 17 不純異性交遊
21 家出 25 飲酒喫煙 33 文身
41 深夜はいかい 48 暴力団接触

④公衆道徳に反する行為

- 3 指定区域外喫煙 7 行列割り込み
14 路上吐痰 18 立入禁止芝生進入
22 公園草木伐採 30 ごみを散らかす

- 34 座席不正確保 38 落書き

⑤交通違反行為

- 4 単車無免許運転 8 無免許運転幫助
11 飲酒運転 15 速度違反 42 騒音発生

⑥個人的倫理に反する行為

23 カンニング 35 虚言 39 約束不履行
共感性尺度については、「まったく違う」から「まったくそうだ」に対して、0点から4点の重み付けを行い得点化した。なお、逆転項目については、その逆の重み付けを行った。この調査票は、共感性を測定する目的で作成されたものであるため、得点が高いことは共感性が高く、得点が低いことは共感性が低いことになる。次に各質問項目をその意味や内容によって、「親しい人への共感」、「その他の人への共感」、「その他の共感」の3カテゴリーに分類した。各カテゴリーに含まれる質問番号は次のとおりである。

ア 親しい人への共感

4, 6, 7, 10, 12, 13, 23, 24, 27, 37, 40, 42, 45, 48

イ その他の人への共感

1, 2, 3, 8, 9, 11, 17, 25, 28, 29, 30, 31, 32, 34,
35, 36, 38, 41, 43, 46

ウ その他の共感

5, 14, 15, 16, 18, 19, 20, 21, 22, 26, 33, 39, 44,
47, 49, 50, 51, 52

3 結果

(1) 対象者の特性

対象者の性別・年齢別の構成を表1に示した。以後、年齢については、低年齢群(15歳

表1 対象者の性別・年齢別構成

年齢	男子 (%)	女子 (%)
14	66 (5.7)	19 (11.2)
15	108 (9.4)	19 (11.2)
16	229 (19.9)	34 (20.0)
17	284 (24.7)	36 (21.2)
18	266 (23.2)	33 (19.4)
19	266 (23.2)	20 (11.8)
計	1,148	170

表2 性別・年齢群別非行名

非行種別	男 子				女 子			
	合計	低年齢群	中年齢群	高年齢群	合計	低年齢群	中年齢群	高年齢群
乗物盗	88	10	45	33	2	1	-	1
他窃盗	235	31	110	94	24	4	8	12
粗暴犯	357	71	170	116	21	5	10	6
凶悪犯	65	12	27	26	5	1	3	1
性 犯	30	1	14	15	-	-	-	-
交通犯	176	2	86	88	1	-	-	1
覚醒剤	58	1	23	34	53	2	24	27
毒劇物	38	5	15	18	14	4	6	4
ぐ 犯	45	33	8	4	45	28	16	1
その他	56	8	15	33	5	1	2	2
%								
乗物盗	7.7	5.7	8.8	7.2	1.2	2.1	1.4	-
他窃盗	20.5	17.8	21.4	20.4	14.1	8.5	11.4	22.6
粗暴犯	31.1	40.8	33.1	25.2	12.4	10.6	14.3	11.3
凶悪犯	5.7	6.9	5.3	5.6	2.9	2.1	4.3	1.9
性 犯	2.6	0.6	2.7	3.3	-	-	-	-
交通犯	15.3	1.1	16.8	19.1	0.6	2.1	-	-
覚醒剤	5.1	0.6	4.5	7.4	31.2	4.3	34.3	50.9
毒劇物	3.3	2.9	2.9	3.9	8.2	8.5	8.6	7.5
ぐ 犯	3.9	19.0	1.6	0.9	26.5	59.6	22.9	1.9
その他	4.9	4.6	2.9	7.2	2.9	2.1	2.9	3.8

(注)「他窃盗」は自動車・単車等乗物盗以外の窃盗である。

以下)、中年齢群(16・17歳)、高年齢群(18歳以上)の3群に分けて分析する。

次に、対象者の本件非行名を性別・年齢別に見たのが表2である。この調査は全国の少年鑑別所に観護措置により入所した少年を、約2か月間原則としてほぼ全数調査したものであるから、この表は最近の少年鑑別所入所者の非行名(複数ある場合は主なもの1つとした)別の最近の傾向を表すものである。まず男子について見ると、粗暴犯は各年齢群とも全非行種別中比率が最も高いが、年齢が高くなるにつれて下がっている。交通事犯の比率は低年齢群は少なく、中年齢群から増加し、高年齢群になると更に高くなっている。逆にぐ犯については、低年齢群で高く、中年齢群になると低くなる。その他、乗物盗以外の窃盗・性犯・覚せい剤は年齢が上がるにつれて、

比率が高くなっている。女子は低年齢群ではぐ犯の比率の高さが際立っており、中年齢群以上になると覚せい剤の比率が高くなる。特に高年齢群では過半数が覚せい剤事犯による入所である。このように、男女とも年齢群別による差があり、特に女子は著しい。

(2) 規範意識尺度に対する統計的検討

規範意識尺度の合計得点の平均値と標準偏差を年齢群別に求めたのが表3、また、年齢群別の分散を求め、男女ごとに一元配置の分散分析を行った結果が表4である。

表3、4から、男女とも年齢が高くなるにつれて規範意識は高くなっているといえる。特に、高年齢群になると男女とも低年齢のものより統計的に有意に高くなっている。なお、性差については統計的に有意な差は認められなかった。

表3 規範意識尺度の平均値と標準偏差

	低年齢群	中年齢群	高年齢
男子	105.9	110.0	114.7
	20.63	21.87	19.64
女子	111.5	108.5	115.2
	23.32	23.91	19.46

注 上段は平均値 下段は標準偏差

表4 規範意識尺度一元配置分散分析結果

		低年齢群	中年齢群	高年齢群
男子	低年齢群			
	中年齢群			
	高年齢群			
女子	低年齢群			
	中年齢群			
	高年齢群			

注 *は5%以下の水準で有意差があったもの

表5-2 規範意識尺度の下位カテゴリ一別平均値と標準偏差(女子)

	低年齢群	中年齢群	高年齢群
犯罪A	33.7	33.4	35.1
	5.28	5.55	4.12
犯罪B	17.5	16.9	18.5
	4.97	4.88	4.28
交通	21.4	20.5	21.0
	6.08	6.22	5.83
ぐ犯	17.4	16.6	18.4
	4.52	4.86	4.23
公衆	14.2	14.1	15.2
	3.59	3.77	2.68
その他	7.2	6.8	7.3
	1.82	1.82	1.32

注 上段は平均値 下段は標準偏差

表6 規範意識尺度一元配置分散分析結果(男子)

		低年齢群	中年齢群	高年齢群
犯罪A	低年齢群			
	中年齢群			
	高年齢群			
犯罪B	低年齢群			
	中年齢群			
	高年齢群			
交通	低年齢群			
	中年齢群			
	高年齢群			
ぐ犯	低年齢群			
	中年齢群			
	高年齢群			
公衆	低年齢群			
	中年齢群			
	高年齢群			
その他	低年齢群			
	中年齢群			
	高年齢群			

注 *は5%以下の水準で有意差があったもの

表5-1 規範意識尺度の下位カテゴリ一別平均値と標準偏差(男子)

	低年齢群	中年齢群	高年齢群
犯罪A	33.0	34.1	35.1
	5.49	5.08	4.33
犯罪B	16.2	16.8	17.8
	4.70	4.98	4.57
交通	20.0	20.5	21.0
	5.08	5.70	5.53
ぐ犯	16.1	17.5	18.6
	4.30	4.22	3.90
公衆	13.9	14.2	14.9
	3.25	3.45	2.95
その他	6.8	7.0	7.2
	1.53	1.63	1.66

注 上段は平均値 下段は標準偏差

表7 共感性尺度得点の平均値と標準偏差

	低年齢群	中年齢群	高年齢群
男子	127.7 21.44	131.4 21.23	133.7 21.61
女子	137.4 22.6	136.3 19.66	139.7 22.71

注 上段は平均値 下段は標準偏差
 なお、各年齢群とも男女間に5%水準で有意差が認められた。

表8 共感性尺度得点一元配置分散分析結果

		低年齢群	中年齢群	高年齢群
男子	低年齢群 中年齢群 高年齢群			
女子	低年齢群 中年齢群 高年齢群			

次に詳しく分析するために、下位カテゴリーの年齢群別平均値と標準偏差を求めたのが表5-1、表5-2である。また、同時に求めた分散から、各非行種別ごとに一元配置の分散分析を行い、多重比較した結果が表6である(女子は、いずれの群間比較においても5%水準では有意差は認められなかった)。これについても性差の検討を行ったが、統計的に有意な差は認められなかった。

表5、表6から、年齢群による比較を行うと、男子では、交通を除いて低年齢群と高年齢群では有意な差が認めれ、年齢が高いほど各カテゴリーに対する規範意識が高くなっている。女子では、有意な差は認められないものの、概ね中年齢群で下がった後、再び上昇する傾向が見られる。

(4) 共感性尺度に対する統計的検討

共感性尺度を整理するに先立ち、項目分析を行うために各対象者ごとに全下位カテゴリーの合計得点を算出し、4分位を求め、合計得点の高低により上位25%と下位各25%で2

表9 共感性尺度カテゴリー別平均と標準偏差

		低年齢群	中年齢群	高年齢群
親しい人への共感	男子	36.3	37.4	37.7
	女子	7.74	7.46	7.68
その他の人への共感	男子	40.7	39.5	39.8
	女子	6.83	6.78	8.03
その他の共感	男子	47.7	49.2	49.9
	女子	8.22	8.64	8.41
その他の共感	男子	50.8	50.7	51.8
	女子	8.93	8.52	8.51
その他の共感	男子	43.7	44.9	45.6
	女子	8.19	8.3	8.3
その他の共感	男子	45.9	46.1	48.1
	女子	9.41	8.04	8.62

(注) 上段は平均値 下段は標準偏差
 なお、各年齢群とも男女間に5%水準で有意差が認められた。

群化し、G-P分析(GOOD-POOR analysis)を行った結果、すべての下位カテゴリーにおいて、1%水準で有意差が認められた。

したがって、対象者の本アンケートへの回答傾向は、一貫しており、分析に耐えるものであると言える。

次に共感性尺度得点の平均値と標準偏差を年齢群別に求めたのが表7である。また、年齢群別の分散を求め、男女ごとに一元配置の分散分析を行った結果が、表8である。表7と表8から、男子では年齢が高くなると共感性合計得点が高くなる傾向が見られ、特に低年齢群と高年齢群では統計的に有意な差が認められる。一方、女子では、一貫した傾向は見られない。性差を見ると、各年齢群とも女子の方が高くなっている。

次にさらに詳しく分析するために、下位カテゴリーの年齢群別平均値と標準偏差を求めたのが表9である。また、同時に求めた分散から男子に対して一元配置の分散分析を行ったのが表10である。なお、女子には群間で有意

意差の認められるものはなかった。

表9, 表10から男子では各カテゴリーとも年齢が高くなると、共感性得点が高くなっている。特に「その他の人への共感」、「その他の共感」については、低年齢群と高年齢群との間に統計的に有意な差が認められる。性差を検討すると、すべてにおいて女子の方が男子より統計的に有意に高くなっている。

次に共感性と保護者の養育の関係について見てみたい。そこで、共感性合計得点について、養育者の安定度別に平均値と標準偏差を見たのが表11である。

表11から男子については、養育者の安定群より不安定群の方が共感性が高めになっている。女子については、養育者の不安定群が最も共感性が高く、ついで安定群となっており、やや不安定群が最も共感性が低くなっている。なお、性差の検討結果では、いずれの養育態度でも女子の方の共感性が有意に高かった。

最後に父母の養育態度別の平均値と標準偏差を見たのが表12から表15である。

表12から父の養育態度別の共感性尺度得点について検討すると、すべての養育態度で男子より女子の方が統計的に有意に共感性が高くなっている。養育態度別に検討すると、男子では、あまり養育態度が影響していないが女子では、普通を基準にすると、拒否・厳格、でき愛、一貫性なしで高くなっている。

さらに詳細に検討するために共感性尺度下位カテゴリーごとに検討した結果を表13から見ると、まず全体的には「親しい人への共感」、「その他の人への共感」では、男子より女子の方が共感性が高いが、「その他の共感」では男子の方が高くなっており、共感性と一概に言っても、その構成要素によって男子の方が高いものがあることがわかる。次に養育態度別に検討すると、普通を基準とした場合、男子では「親しい人への共感」、「その他の人への共感」については、放任、拒否・厳格、でき愛、一貫性なしのいずれの養育態度でも共

感性は低くなっている。「その他の共感」では、でき愛、一貫性なしで高くなる傾向がある。同様に女子について普通を基準にすると、「親しい人への共感」では放任、拒否・厳格、でき愛、一貫性なしのいずれの養育態度でも共感性は低くなっている。「その他の人への共感」では、放任、拒否・厳格、でき愛、一貫性なしとも低い、中でも放任とでき愛で低さが目立っている。

次に母の養育態度別の共感性尺度得点について、表14から検討すると、すべての養育態度で男子より女子の方が共感性が高くなっている。養育態度別に検討すると、普通を基準とした場合、男子では放任、一貫性なしで低く、拒否・厳格で高くなっている。女子では、放任、拒否・厳格、でき愛、一貫性なしのどの共感性得点も普通を下回っている。

さらに詳細に検討するために、共感性尺度下位カテゴリーごとに検討した結果を表15から見ると、まず全体的には「親しい人への共感」、「その他の人への共感」では男子より女子の方が共感性が高いが、「その他の共感」では、でき愛の場合だけ男子の方が共感性が高くなっており、父親の養育態度別の検討で指摘したとおり、共感性は一貫して女子の方が高いとは言えない。次に養育態度別に検討すると、普通を基準とした場合、男子では「親しい人への共感」において、放任、でき愛、一貫性なしで多少低くなっている。「その他の人への共感」においては、拒否・厳格で高く、一貫性なしで最も低くなっている。「その他の共感」では、拒否・厳格、でき愛で高く、放任、一貫性なしで低くなっている。女子について同様に検討すると、「親しい人への共感」では、放任、でき愛、一貫性なしで低くなっており、中でも一貫性なしで低さが目立っている。「その他の人への共感」では、放任、でき愛、一貫性なしで低くなっている。「その他

表10 共感性尺度一元配置分散分析結果（男子）

		低年 年齢群	中年 年齢群	高年 年齢群
親しい人への共感	低年齢群 中年年齢群 高年齢群	/		
その他の人への共感	低年齢群 中年年齢群 高年齢群	*	/	
その他の共感	低年齢群 中年年齢群 高年齢群	*	/	

注 *は5%以下の水準で有意差があることを示す。

表11 養育者の安定度で見た共感性のカテゴリ別平均値と標準偏差

	安定	やや不安定	不安定
男子	131.3 21.63	132.2 20.84	132.2 22.02
女子	138.7 21.28	135.8 21.66	139.9 21.51

注 上段は平均値 下段は標準偏差
なお、安定度を群として一元配置の分散分析を行ったが、有意差が認められた項はなかった。また、安定度ごとに性差の検討を行ったところ、5%水準での有意差が認められた。

表12 父親の養育態度別に見た共感性尺度の平均値と標準偏差

	普 通	放 任	拒否 ・ 厳格	で き 愛	一貫 性 なし
男子	129.8 22.23	129.9 22.25	131.4 22.34	129.8 22.09	129.3 20.29
女子	133.0 19.02	133.8 26.22	138.4 16.20	137.9 24.84	144.1 18.77

(注) 上段は平均値 下段は標準偏差
なお、養育態度ごとに性差の検討を行ったところ、5%水準での有意差が認められた。

表13 父親の養育態度別共感性尺度下位カテゴリの平均値と標準偏差

		普 通	放 任	拒否 ・ 厳格	で き 愛	一貫 性 なし
親しい人への共感	男子	37.5 7.45	37.0 7.84	37.4 7.99	37.0 7.82	36.6 6.92
	女子	42.5 7.51	38.9 8.36	39.5 5.70	38.4 8.96	40.7 7.53
その他の人への共感	男子	50.1 7.75	48.4 9.17	49.2 8.99	49.1 8.72	48.3 8.39
	女子	52.8 8.68	49.4 10.65	52.4 5.43	50.6 10.08	54.3 5.73
その他の共感	男子	5.4 7.49	45.5 8.99	46.6 8.32	48.9 7.57	48.3 8.30
	女子	42.5 7.51	38.9 8.36	39.5 5.70	38.4 8.96	40.7 7.53

(注) 上段は平均値 下段は標準偏差
なお、養育態度を群として一元配置の分散分析を行ったところ、有意差は認められなかった。

表14 母親の養育態度別に見た共感性尺度の平均値と標準偏差

	普 通	放 任	拒否 ・ 厳格	で き 愛	一貫 性 なし
男子	132.5 20.88	130.6 23.81	134.4 21.32	132.7 19.98	127.1 19.50
女子	142.0 19.02	137.2 24.29	140.0 23.29	135.2 18.73	138.5 15.99

(注) 上段は平均値 下段は標準偏差
なお、養育態度ごとに性差の検討を行ったところ、5%水準での有意差が認められた。

表15 母親の養育態度別共感性尺度下位
カテゴリーの平均値と標準偏差

		普 通	放 任	拒否 ・ 厳格	で き 愛	一貫 性 なし
親しい人への共感	男子	37.7 7.57	37.1 8.30	37.7 8.03	37.5 6.89	36.5 7.07
	女子	41.6 6.58	39.4 7.83	41.3 7.48	38.8 6.50	38.8 5.44
その他の人への共感	男子	49.8 8.31	48.6 9.43	50.6 7.60	49.4 7.99	47.6 7.97
	女子	52.4 7.47	50.8 9.81	51.4 8.85	50.9 8.05	52.9 6.33
その他の共感	男子	45.0 8.03	44.9 8.87	46.1 9.90	45.6 7.72	43.1 7.95
	女子	48.0 8.11	47.0 9.18	47.3 8.91	45.4 8.38	46.8 7.50

(注) 上段は平均値 下段は標準偏差

なお、養育態度を群として一元配置の分散分析を行ったところ、有意差は認められなかった。

の共感」については、放任、拒否・厳格、でき愛、一貫性なしのいずれも低いが、中でもでき愛の場合低くなっている。

6 考察

規範意識について見ると、男子では年齢が高いほど規範意識が高く、女子でも高年齢群が最も高くなっている。ただし、本研究は個々の対象者の発達のな変化を追いながら調査を行ったものではなく、また、少年鑑別所に收容された少年に対しての調査であるから、得られた結果は、この調査での各年齢群の特徴を示したものであり、この結果を一般化し、規範意識は年齢の上昇と共に高くなるという解釈はできない。

さて、以上のような結果について、さらに詳しく分析するため、規範意識の下位カテゴリーごとに分析すると、男子では、各カテゴリーとも年齢が高い群ほど規範意識が高くなっている。特に犯罪Aとぐ犯については、低年齢群と中年年齢群との間にも有意な差が認められるなど低年齢群の規範意識の低さが際立っている。これは、低年齢群はそれだけ早期

に非行を行っており、それだけ非行性が進んでいるから規範意識が乏しいものと考えられる。一方女子では、統計的な有意差こそ認められないものの、中年年齢群の規範意識が乏しくなっていることが特徴として指摘できよう。

次に共感性について考察する。共感性尺度得点の性差に着目すると、女子の方が男子に比して各年齢群とも共感性が高くなっている。女子の方が共感性が高いことは質問紙法を用いたこれまでの研究のほとんどで指摘されている。

なぜ女子の方が共感性が高いかという点についていろいろの説があるが、女性は幼児期という比較的早い時期から感受性の発達を促すように育てられている。したがって、より共感的になることが、親の期待でもありひいては社会の期待でもあるわけである。質問紙法のように、各質問に対する回答の性質がはっきりしている調査の場合、特にこのような種の社会的望ましが回答に反映されるためと考えられている。

さて、共感性はいくつかの構成要素から成り立っているが、本研究では、3つの下位カテゴリーに分類し考察した。まず、年齢群別の変化を見ると、男子では、各カテゴリーとも年齢が上昇すると共感性が高くなっている。特に「その他の人への共感」、「その他の共感」については、低年齢群と中年年齢群との顕著な違いが認められる。その他の人への共感とは、他人への思いやりを意味するものであり、これが低いことが低年齢からの非行化の重要な要因となっていることが考えられる。また、「その他の共感」については、他者の感情を推測したり、小説やテレビなどの登場人物など架空の他者に共感するという内容であるが、これは社会的な学習や経験と大きく関連するものであり、暦年齢が高い者ほど共感性が高いと解釈しても差し支えないものと考えられる。同様に女子についてみると、年齢による各カテゴリー別の共感性にあまり変化

は認められないことから、男子と同じとはいえない。

各カテゴリーの性差について検討すると、いずれも統計的な有意差が認められることから、共感性合計得点を分析する際に指摘したことはここでも成立つ。

最後に、共感性は、家庭の状況によってその発達が促されたり阻害されたりしやすいという観点から、考察を進めてみたい。まず、養育者の安定度と共感性の発達との関係を見ると、男子の場合は、安定度が共感性の発達に影響を与えることはあまりないように思われる。一方女子の結果を見ると、「不安定」な場合一番高く、それについて「安定」、最も共感性が低いのが「やや不安定」という結果になっている。これは共感性の各カテゴリーについての同様の分析からも同じ結果が得られている。この「不安定」の場合が最も共感性が高いという結果は、非行少年特有の結果であると考えられる。先行研究の結果や通説に基づけば、養育者が安定しているほど共感性が高くなる、すなわち基本的な親子間の情愛が保たれているほど、情緒的な安定が得られ、他者に対して共感する余裕もあるし、親子間の恒常的な触れ合いに基づいて、共感性の発達を促進するような正の動機付けがなされると考えられている。しかし、本研究の結果を見る限りは、非行少年についてそのような一般的な解釈ができないことがわかる。非行少年の場合、養育者が安定していたとしてもそれは形式的に安定している場合を含んでおり、養育者の養育態度や価値観に大きなゆがみが認められることが多いことから、共感性について考えるときや、分類鑑別を行う際に、安定しているかどうかよりも、むしろ養育者の養育観についての分析を行った上で考察を進めなければならないことが示唆された。

そこで、父母の養育態度と共感性との関係について考察する。まず、父の養育態度に着目すると、男子の共感性尺度得点では、「拒否・

厳格」である場合に共感性が最も高くなっている。女子では「拒否・厳格」、「でき愛」、「一貫性なし」について共感性が高くなっている。

次に母の養育態度と共感性の関係についてみると、男子では「普通」に比して「拒否・厳格」の場合共感性が高くなっている。一方女子をみると、「普通」に比べそれ以外のどの養育態度においても共感性が低くなっている。

以上を総合してみると、男子については、父母の「拒否・厳格」という養育態度が共感性を高くし、女子については、父の養育態度の偏りが共感性を高くし、母の養育態度の偏りが共感性を低くしているということになる。この結果は男女により、また父や母の養育態度により共感性の発達が左右されるということを示唆している。

さらに詳細に分析するために、共感性の低位カテゴリーについて見ると、やはり父母の養育態度により共感性の高低が認められ、男子では「その他の共感性」に、女子では「その他の人への共感」、「その他の共感」において、養育態度に偏りが認められる方が、共感性が高くなっている。

さて、これまでの研究では、保護者の養育態度に偏りがあると、その子の共感性が低くなるという結果が得られており、その理由として、しつけが偏っていると、共感性の発達を促すような正の動機付けが行われないという点が指摘されている。しかし、今回の結果はこれと逆になる部分があり、偏りのある場合に共感性が高くなっている点が認められる。この理由について、本研究だけでは明確な回答は出せないが、非行少年の場合は、家庭内で満たされない依存欲求などを、他者に受け入れられることで満足させようとするため、他者の感情の動きに敏感になりやすいことが考えられる。それは、男子の場合、父母が「拒否・厳格」で自分が受け入れられていないのではないかと思いきみやすい環境で養育され

ている場合、共感性が高くなっていることに象徴されていると考えられる。同様に、女子の場合も、父の養育態度については男子と同じことが指摘できるし、母についても、下位カテゴリーでみると偏りのある方が共感性が高くなっている。

以上考察したように、共感性にしても規範意識・道徳意識にしても、非行少年に対して通説的な説明を適用することはかなり難しく、今後非行少年の共感性の特質について更に詳細に分析する必要がある。

参考文献

- 出口保行・斉藤耕二 1990 共感性の因子
分的研究 東京学芸大学紀要 第1部
門教育科学 第41集 183-196
- 出口保行・斉藤耕二 1991 共感性の発達
的研究 東京学芸大学紀要 第42集
119-134
- 笠井達夫 1974 非行少年の道徳判断につ
いて 犯罪心理学研究 10-2 73-84
- 坪内宏介・佐藤典子・浜孝明・橋迫重夫・
小坂清文・遊間義一 1993 法務総合
研究紀要33 97-127

資料1 規範意識尺度質問一覧

- 1 ……まったく悪くない
 - 2 ……やや悪くない
 - 3 ……やや悪い
 - 4 ……まったく悪くない
- のうちの最もあてはまると思うものを1つ選んで、その下の番号に○をつける。

- 1 よくない友達とつきあう
- 2 勉強が嫌いなので学校へ行かない
- 3 禁煙の場所で、たばこを吸う
- 4 無免許でオートバイを運転する
- 5 警察に追われている友達をかくまう
- 6 決まって仕事を待っている行列に割り込む
- 7 電車やバスで知っている行列に割り込む
- 8 無免許と知りながら、友達にオートバイを貸す
- 9 ばかにされたとき、かっとなって人をなぐる
- 10 家にある物を黙って持ち出して、金に代える
- 11 酒を飲んでオートバイを運転する
- 12 腹立ちまぎれに通りかかりの人をなぐる
- 13 自分が殺されそうなとき、人を殺してしまふ
- 14 路上につばをはく
- 15 他の車が遅すぎるので違反を承知でスピードを上げる
- 16 人をだましてお金をとる
- 17 行きずりに知り合っった異性とホテルに泊まる
- 18 立ち入り禁止の芝生の中でボール遊びをする
- 19 みんなが制限速度を超えて走っているの、それに合わせてスピードをあげる
- 20 スーパーやコンビニ等でお菓子を万引きする
- 21 親に逆らって家出する
- 22 公園の木や草花を折ったり、とったりする
- 23 テストの時カンニングをする
- 24 キーがついたまま駐車している自動車を乗りまわす

- 25 未成年なのに、酒を飲んだりたばこを吸う
- 26 道路のカーブミラーに石をぶつけて割る
- 27 電車にただ乗りする
- 28 留守の家に入り込んでお金をとる
- 29 おもしろ半分シンナーやボンドを吸う
- 30 公園のあちこちにゴミを散らかす
- 31 だれも見っていないところで1万円札を拾ったら自分のものにする
- 32 人をおどしてお金をとる
- 33 入れ墨をいれる
- 34 駅で人の列に割り込んで、友達のために席をとる
- 35 親や友達にうそをつく
- 36 友達に誘われて一緒に万引きをする
- 37 ナイフや刃物を持ち歩く
- 38 公衆便所に落書きをする
- 39 人との約束を守らない
- 40 親友の悪口をいふからず友達をなぐる
- 41 夜遅くまで遊び歩く
- 42 夜遅く、大きな音をたててオートバイを走らせる
- 43 けんかを売ってきた相手を殴る
- 44 前に自分をいじめた相手を反対にいじめる
- 45 嫌のかかっつていない自転車に黙って乗る
- 46 貸した金を返さない相手をなぐるってお金を取り返す
- 47 友達に盗んできたオートバイに乗る
- 48 暴力団に関係のある人と遊ぶ

資料2 共感性尺度質問一覧

- 1 ……まったくちがう
 - 2 ……ややちがう
 - 3 ……どちらでもない
 - 4 ……ややそうだ
 - 5 ……まったくそうだ
- のうち最もあてはまると思うものを1つ選んで、その下の番号に○をつける。
- 1 私は大勢の中で一人ばつんといる人を見るとかわいそうになる
 - 2 私は落ち込んでいる人を見ると自分まで落ち込んでしまう
 - 3 私はまわりの人たちが細かいことを気にしたりすると、自分までいらいらしてしまう
 - 4 私は友達が悩んでいると、自分も巻き込まれて暗い気持ちになる
 - 5 私は愛を歌った歌に感動しやすい
 - 6 私はまわりの人たちの影響を受けて気分が変わりやすい
 - 7 私は人に悪い知らせを教えるときは、ゆううつな気持ちになる
 - 8 私は贈り物をもった人が喜んでいるのを見るのが好きだ
 - 9 私は泣いている人を見ると、気持ちが落ち着かなくなってしまう
 - 10 私は友達のお金が不安定になっても、自分まで巻き込まれてしまうことはない
 - 11 私はうれし泣きする人を見ると、少しばかり嬉しい感じがする
 - 12 私はまわりの人が悩んだり苦しんだりしていても、平静でいることができる
 - 13 私は友達がお悩みごとを話し出すと、話をそらしたくなる
 - 14 私は人よりも他人の気持ちを理解しようと心がけている
 - 15 私は歌を歌ったり聞いたりすると、楽しい気分になってくる
 - 16 私は漫画を読んでいると、その主人公の気持ちに引き込まれてしまうことがよくある
 - 17 私は人が冷たくされているのを見ると、大変腹が立つ
 - 18 私は動物がいじめられているのを見ると、かわいそうでじっとしていられなくなる
 - 19 私は一人暮らしのお年寄りを見ると、かわいそうになる

- 20 私はテレビなどドラマを見ているとつい夢中になってしまう
- 21 私は話し合いをしているときは、相手が自分の考えをどう思っているかまず知ろうとする
- 22 私はテレビなどで戦争や殺人のドラマを見ていると心が乱れてしまう
- 23 私は仲のよい人がはしゃいでいると、直接自分に関係なくとも楽しくなってくる
- 24 私は親友が先生にしかられていているのを見ると、頭に来る
- 25 私は他人の抱えている悩みをまるで自分の悩みのように感じることもある
- 26 私はテレビなどで感動的なドラマを見ると、自分をすぐその主人公に置き換えてしまう
- 27 私は親がお金のことなどで困っている時は、自分も落ち込んでしまう
- 28 私はテレビなどのドラマを見て涙ぐんでいる人を見ると、おかしいと思うことがある
- 29 私は悲しくて涙を流している人を見ると、同情するよりいらいらしてしまうことがある
- 30 私は悲しみやショックで心が不安定になっている人を見ると、どうしてそのようなことになるのか理解できない
- 31 私はテレビなどのドラマに夢中になっている人を見ると、少しばかりかしい感じがする
- 32 私は人から何か言われると簡単に決心を変えてしまいやすい
- 33 私は見知らぬ人であっても、その人の表情や態度から心の中を想像してみることがある
- 34 私は交通事故だけがをした人を見ると、気持ちが動揺してしまう
- 35 私は一人暮らしをしているお年寄りを見ると、その人がどういう気持ちでいるのかを考える
- 36 私は非常に機嫌の悪そうな人を見ると、どうして不機嫌になったのだろうかと考えている
- 37 私は友達がよく仕事をみつけた時は、自分のことのように喜んでしまう
- 38 私はパソコンで大勝した人の話を聞くと、思わずうれしくなってしまう
- 39 私は人と意見が合わない時には、どうしてその人がそうした意見を持つのか考えてみる
- 40 私は友達にけがをしたのを見ると、自分もつらい気持ちになる

- 41 私はテレビのクイズ番組で多額の賞金をもらった人を見ると、興奮して喜んでしまう
- 42 私は友達が集会に出て、まごまごして困っているのを見ると、落ちつかない気持ちになる
- 43 私はまわりの人が興奮しているも、巻き込まれないで平静でいられる
- 44 私は動物がいじめられているのを見ても、冷静でいられる
- 45 私は自分の嫌いな人がしかられているのを見ると、いい気味だと思う
- 46 私はまわりの人が笑っていても気にならない
- 47 私は他人の問題に巻き込まれないように、その人と距離を置こうとする
- 48 私は友達の仕事で大失敗しても、それはその人の問題で、私には関係がないことだと思う
- 49 人の心の中で起きていることは、他人には本当はわからない
- 50 私は漫画や小説に熱中すると、その中のできごとが私に起きたらどんな気持ちになるだろうかと考えてしまうことがある
- 51 私はテレビなどのドラマを見たりすると、登場人物の一人になったような気になることがある
- 52 私は口に出して言わなくても、親友ならば何を考えているのか大体わかる